

国際化学肥料ニュース（2022年2月）

肥料業界の2022年2月動態

- * 1月31日、ロシア政府は硝安の輸出を一時禁止する命令を出した。禁止措置は2月2日から発効して、4月1日まで継続する。禁止の理由は春シーズンの天気予報が良く、穀物栽培面積が増え、肥料消費量が大幅に増加する見込みであるため、国内需要を確保する目的である。

- * ベトナムからの報道によれば、ベトナム税関の速報では2021年ベトナムが454万トン化学肥料を輸入して、金額で14.5億ドルに達し、前年比ではそれぞれ19.4%と52.6%増である。最大の輸入元は中国で、計202万トンを輸入した。次いで東南アジア諸国連合で、計50.48万トンを輸入した。3番目はロシアで、計38.62万トンを輸入した。一方、ベトナムは2021年に135万トン化学肥料を輸出し、金額で5.59億ドル。カンボジア、韓国、マレーシアとフィリピンが主な輸出先である。

- * 1月28日インドIPL社が今年最初の尿素国際入札を行った。2月7日締め切りと開札、3月20日まで船積みという条件である。購買数量未定。

- * インドIPL社の尿素国際入札には計20社が応札して、応札数量319.4万トン。最低応札価格はAMBER社で、CFR東海岸と西海岸とも596.45ドル/トンで、2番目最低応札価格がCFR東海岸612.75ドル/トン、西海岸604.65ドル/トンである。前回2021年12月23日開札されたIPL社の尿素国際入札に比べ、CFR東海岸では303.05ドル/トン、西海岸では297.55ドル/トンも下がった。IPL社は140万トンを購入する予定である。

- * 2月第2週（7～13日）の尿素国際相場は2月7日開札されたインドIPL社の今年最初の尿素国際入札結果に強く影響された。IPL社の最低応札価格は、東海岸と西海岸の両方ともCFR596.45ドル/トンであることについてほとんどの市場参加者が驚かせた。ただし、2社を除くほかの応札者はCFR649ドル/トンを超えているため、アメリカとブラジルの2大尿素市場にとって悪くないニュースでもある。

西半球では、インド入札の結果を受け、バルト海のFOB価格が520～530ドル/トン、北アフリカのFOB価格が500ドル台半ば/トンにさらに下がってきた。世界的な尿素需要が不足しているため、尿素価格が引き続き下がる見通しである。

- * 2月14日、カナダのCanpotex社はインドIPL社との間に2022年塩化加里輸入基本計画を締結したと発表した。塩化加里をCFR590ドル/トンでインドに供給する内容で、

その有効期限は 2022 年 12 月 31 日までである。CFR590 ドル／トンの価格は昨年 2 月に締結された 2021 年塩化加里輸入基本契約の CFR247 ドル／トンより 343 ドルも高く、2021 年 12 月に更改された基本契約の CFR445 ドル／トンよりも 145 ドル高くなっている。通常、ほかの大手加里メーカーも同じ価格でインド側と塩化加里輸入基本契約を締結することになる。

- * 2 月 15 日、カナダの Canpotex 社は中国側と 2022 年塩化加里輸入基本計画を締結したと発表した。塩化加里を CFR590 ドル／トンで中国に供給する内容で、その有効期限は 2022 年 12 月 31 日までである。CFR590 ドル／トンの価格は昨年 2 月に締結された 2021 年塩化加里輸入基本契約の CFR247 ドル／トンより 343 ドルも高くなっている。

中国側が急いで塩化加里輸入基本契約を締結した理由は、1 月末現在、中国国内塩化加里在庫量が約 230 万トン、国の塩化加里備蓄量 150 万トンを除くと、供給できる量が 80 万トンしかなく、国内塩化加里価格が暴騰したため、加里大手メーカーが出した値段を飲んだ。通常、ほかの大手加里メーカーも同じ価格で中国側と塩化加里輸入基本契約を締結することになる。

- * 2 月第 3 週（14～20 日）の尿素国際相場は緩やかな下落が続いている。インド IPL 社の尿素国際入札で 140 万トン弱を確保したが、他の輸入先での需要不足で生産者は在庫増に悩まされ続けている。西半球の 2 月末と 3 月以降の出荷については、エジプト尿素は FOB600 ドル／トンを超える価格を保持しようとしているが、アルジェリアの最新オファーでは FOB580 ドル／トン未満に下がったと報告されている。ロシアの生産者は、EU や南米に少量の輸出が行われているが、まだ大量の在庫を保持している。CFR ブラジルとメキシコ価格がすでに 550 ドル／トンまで下がった。

東半球ではインドネシアが FOB581 ドル／トンで貿易商に尿素を販売したほか、ベトナムと台湾では尿素の CFR 価格が約 600 ドル／トンまで下がった。

インドからの報道によれば、インド IPL 社は 3 月に再度尿素国際入札を行い、昨年後半から蓄積されている尿素輸入の赤字を削減しようと考えている模様。

- * 2 月第 4 週（21～27 日）の尿素国際価格がロシアへのさらなる経済制裁の可能性からロシア産尿素の供給混乱に対する市場関係者の懸念により週の後半に急速に上昇した。エジプトでは尿素の FOB 価格が 25 日だけで 5 回も値上げられ、先週末より 130 ドル／トンも高くなっている。アメリカの FOB Nola 価格も 150 ドル／トン高くなり、705 ドル／トンとなっている。2021 年ロシアの尿素輸出量が約 700 万トン、世界尿素貿易の 14%弱を占めている。

* リトアニアが 2 月 1 日から開始したベラルーシ産塩化加里の輸送停止により、ベラルーシ加里 (JSC Belaruskali) 社は契約済みの塩化加里輸出契約を履行できない声明を公表した。これに反応して、2 月 24 日アメリカの Mosaic 社は 3 月以降のりん酸肥料と加里肥料の価格発表を取り消した。

* 2 月のりん安国際価格は上がり気味である。インドとパキスタンの DAP 輸入が停滞しているが、大豆とトウモロコシの価格上昇で、ブラジルとアルゼンチンはりん安輸入の動きが活発になり、りん安相場をけん引している。MAP の CFR ブラジル価格が 1 月末の 840~860 ドル/トンから 870~890 ドル/トンに上昇し、3 月分のロシア産 MAP の見積りは CFR900 ドル/トンを超え、モロッコ産 MAP の見積りは CFR920 ドル/トンとなっている。アルゼンチンも MAP と DAP の CFR 価格が月初めの 870~875 ドル/トンから月末に 915 ドル/トンを超えた。

アメリカの Mosaic 社は FOB850~858 ドル/トンで 1 万トン DAP と 5000 トン MAP を南米に販売した。アルゼンチンはロシアから 3 万トン MAP、モロッコから 1.5~2 万トン MAP と DAP を購入した。中国産りん安が「法定検査」により、大量の輸出ができず、国内供給に集中している。ただし、4 月から「法定検査」が緩くなり、一部解禁の噂がある。

* インドからの報道によれば、インド政府とネパール政府は 2 月 28 日に化学肥料の供給に関する覚書を締結した。インドがネパールに長期に渡って尿素と DAP を安定的に供給する約束である。ネパールは化学肥料工場がなく、すべて輸入に依存している。

* 中央アジアのギルキス共和国政府は国内農業に優先的に供給するため、2 月 22 日からユーラシア経済連合 (EEU、旧ロシアの 5 か国からなる経済連合体) 以外の国への化学肥料輸出を 6 ヶ月間に一時全面禁止する命令を出した。ギルキスは国内尿素とりん酸肥料の年間生産量約 50 万トン、国内供給のほか、一部を周辺諸国に輸出している。

* 2 月 24 日から尿素の国際相場はロシアのウクライナ侵攻に反応して、急上昇した。ロシアに対する最新の経済制裁は肥料業界に直接影響を与えていないが、ロシアからの肥料供給に対する重大な懸念により、買手の間で新たな需要を引き起こした。多くの貿易業者や輸入業者は、ロシア銀行、資金調達、バルト海と黒海の港から出る貨物の海運保険制限に対する懸念から、ロシアからの肥料調達を検討していない模様。また、さらなる制裁がロシアとのビジネスに影響を与える可能性という懸念があり、多く買手がロシア以外の生産者からより高い価格を仕方なく受け入れている。

その結果、北アフリカ産尿素の値段が急速に上昇し、エジプト産大粒尿素の FOB 価格が 1 週間で 300 ドル/トン近く上がった。最新の FOB 価格は 905 ドル/トンである。

アメリカ湾岸地域では、春の栽培シーズンに向けて供給を確保することを目指して、業者が市場で積極的に尿素を集めている。その結果、3月のFOB Nolaは120ドル/トン以上の値上げで、CFRメキシコ西海岸は800ドル/トン台の半ばに上昇した。

西半球の尿素高騰は、東半球のサプライヤーにも機会をもたらした。中東の大粒尿素的の4月出荷分はFOB700ドル/トン以上で売られ、その後の入札はFOB800ドル/トン弱まで上昇した。東南アジアでは、メーカーは積極的の動きがないが、最近の入札もFOB700ドル/トン以上に進んでいる。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * オーストラリアの Perdaman Chemicals and Fertilizers 社は西オーストラリア州 Karratha 市に尿素工場を建設する計画を発表した。当該尿素プロジェクトは投資額 43 億オーストラリアドル（約 30.5 億ドル）、年間尿素生産能力 200 万トン、2023 年完成する予定。
- * ブラジルの Verde AgriTech 社は、ブラジル政府から年間最大 250 万トン加里鉱石の採掘権を取得したと発表した。Verde AgriTech 社はブラジルの南東部のミナスジェライス州に Verde's Mine 加里鉱山プロジェクトを実施して、Pit1 ではすでに年間 280 万トン加里鉱石の採掘が行っている。今回は Pit2 でさらに 250 万トン加里鉱石の採掘権を与える。
- * Global Data 社の最新レポート「Global Ammonia Industry Outlook to 2026 – Capacity and Capital Expenditure Forecasts with Details of All Active and Planned Plants」には、インドが 2026 年までに 12 件のアンモニアプラント新設及び拡張プロジェクトを完成し、稼働する予定である。これらのプロジェクトが稼働できれば、年間アンモニア生産能力が約 697 万トン増加する。

Global Data 社のレポートによると、インドは 2022～2026 年にアジアで最も高いアンモニア生産能力の追加を記録し、2026 年までに世界新規アンモニア生産能力の 50% 以上を占めると予測されている。そのうち Reliance Industries 社の Jamnagar Ammonia Plant は生産能力 150 万トン、2025 年に完成する予定。ほかに Matix Fertilizers&Chemicals 社の Panagarh Ammonia Plant 2、Hindustan Urvarak 社の Rasayan Barauni Ammonia Plant、HindustanUrvarak 社の RasayanSindri Complex Ammonia Plant、Paradeep Phosphates 社の Paradip Ammonia Plant および Talcher Fertilizer 社の Talcher Ammonia Plant などがある。

- * イギリスの Anglo American 社はイギリスのノーズヨーク郡にある Wood smith ポリハライトプロジェクトに 2022 年に 4 億 4000 万ポンドを投資すると発表した。2021 年の投資額 3 億 9000 万ポンドより 5000 万ポンド増加する。プロジェクトの進捗について、Lockwood Beck シャフトはすでに目標深度の地下 383 m に達し、完成したほか、ティーズサイドからの鉱物輸送トンネルの掘削長さが 18km に達した。
- * インドの国営肥料メーカー FACT 社はケララ州のエルナクラム地区にある Ambalam Edu 工業団地に NPK 化成肥料製造プラントを建設する計画を発表した。設計生産能力 1650 トン／日、2023 年夏に完成し、稼働開始するという。
- * ブラジルの Verde AgriTech 社は Minas Gerais 州に建設中の加里生産施設 Plant 2 の生産能力を 2 倍にする作業に入ったと発表した。Plant 2 は 2022 年第 3 四半期に稼働する予定で、年間塩化加里生産能力 120 万トン。その拡張も 2022 年第 4 四半期に完成し、稼働させ、年間生産能力を 240 万トンに引き上げる計画である。また、2022 年 2 月 10 日、Verde AgriTech 社はさらに年間 250 万トン加里鉱石の採掘権を新たに取得して、Plant3 の建設も計画している。ブラジルは加里消費量では世界 2 番目、輸入量では 1 番目にランクされ、2021 年の消費量が K₂O 換算で 792 万トン、消費量の 96%以上を輸入に依存している。

その他

- * ロイターの報道によれば、ブラジル政府の農業大臣は国営石油会社ペトロbras 所有の窒素肥料プラント UFN3 をロシアの Acron 社に売却する契約を締結したと発表した。UFN3 プラントは年間 80 万トンアンモニアと 130 万トン尿素の生産能力がある。
- * ノルウェーの Yara 社はブラジルにある Salitre リン酸肥料プロジェクトを無事にロシアの EuroChem 社に売却したと発表した。売却額 4 億 5200 万ドル。
Serra do Salitre リン酸肥料プロジェクトは、ブラジル南東部のミナスジェライス州にあり、3 億 5000 万トン以上の埋蔵量を持つ露天採掘のリン鉱山と年間 100 万トン MAP / NP および SSP / TSP 製造プラントで構成されている。Yara 社は 2014 年から Salitre リン酸肥料プロジェクトを開始し、2023 年稼働開始と計画しているが、新型コロナの影響で、投資と進捗が遅れている。
- * ロシアの窒素肥料メーカー Togliattiazot 社は、ウクライナの状況により、Togliatti-Odessa のアンモニアパイプラインの輸送を停止すると発表した。それに合わせて、アンモニア合成プラント 4 基の稼働を停止し、3 基の稼働を削減させる。ただし、アンモニア生産量は、社内の尿素及びホルムアルデヒド生産ラインの原料を確保できるほか、鉄

道輸送で出荷を増やし、需要家に対する供給義務を確実に果たす十分な生産量を維持するという。

- * ロイター通信の報道によれば、カナダの **Nutrien** 社の **CEO** はロシアのウクライナ侵攻により、加里と窒素肥料の世界的な供給に長期的な混乱をもたらす可能性があるとして述べた。加里生産量世界第2位のロシアと第3位のベラルーシは経済制裁により加里の持続的な供給に問題が発生する場合、**Nutrien** 社が加里増産の用意があると述べた。

- * アメリカの **Koch** 社はモロッコの **OCP** 社から **Jorf Fertilizers Co. III (JFC III)** の50%の持分を取得するという契約を締結したと発表した。取引が完了すると、**JFC III** が **Koch** 社と **OCP** 社のそれぞれ持ち株 50 : 50 の合弁会社となる。**JFC III** は年間最大 110 万トンリン酸ベースの肥料を生産する能力を備えて、世界最大のリン酸肥料生産基地であるモロッコ **Jorf Fertilizer Complex** の1つである。